

**別紙 4****ホームルーム担任・教科担任の日々のホームルーム経営・教科指導を見直すためのチェックリスト**

直接いじめの加害者・被害者になっていない生徒たちでも、いじめが起きやすい雰囲気ホームルーム集団の中にいると心が乱れてきます。反対に、ホームルームの環境を整備することで、生徒たちの心が豊かになり、温かい人間関係を築くことが可能になります。ここでは、ホームルーム担任・教科担任として、日々のホームルーム経営・教科指導を見直す際のチェックポイントを示します。

チェック ○×	【教師の言動】
	1. 生徒の言い分に耳を傾けている。
	2. 生徒の良さを見つけようとしている。
	3. 人に迷惑をかける行動には、毅然とした態度で対応している。
	4. えこひいきや差別をせずに、生徒に接している。
	5. 必要以上に競争意識をあおったり、個人の責任を集団に押しついたりすることがない。
	6. 個人のプライバシーを守っている。
	7. 1日に1回は会話をを行うなど、どの生徒とも関わり合いを持っている。
	8. 教師自身が生徒を傷つけたり、いじめを助長するような言動をしない。

チェック ○×	【授業時間・ホームルーム活動】
	1. 分かりやすい授業、充実感の持てる活動が行われている。
	2. どの生徒の発言にも、ホームルームの生徒全員が耳を傾けている。
	3. 困ったことを話題にし、本音を出して考え合う雰囲気ができている。
	4. SHR、終礼が内容豊かで、生き生きと運営されている。
	5. ホームルームのリーダーに協力する支援体制ができている。
	6. ホームルームの係が積極的に活動し、新しい試みを取り入れようとしている。

チェック ○×	【日々の生活】
	1. ホームルーム内に、自分の誤りを認め、許し合える雰囲気がある。
	2. 教室に笑い声が響き、明るい雰囲気がある。
	3. ホームルームの小集団が閉鎖的でなく、互いに交流がある。
	4. 昼食時に和やかな雰囲気があり、清掃や係活動等で公平に仕事が行われている。

チェック ○×	【教員同士の連携・保護者との連携】
	1. 学年会や他の会議で、生徒の様子を情報交換できる場が保障されている。
	2. 日頃から職員室に、生徒やホームルームの様子を気楽に話題にできる雰囲気がある。
	3. 学年通信等をとおして、学年・ホームルームの取組の様子が保護者に理解されている。
	4. 日頃から、個々の生徒の様子を保護者と連絡し合える体制が確立されている。
	5. いじめ等の問題について、保護者の訴えを謙虚に受けとめ、正確に情報提供している。

※ 生徒たちは、学校のすべての場で学んでいます。学校経営方針のもと、学年等で情報交換を密にし、教職員同士が互いに高まり合いながら、ホームルーム経営や教科指導を見直していく必要があります。また、ホームルームをチェックする時期やチェックしたことの生かし方を考える時、見直しを持つことも大切です。